

心してへき地教育に専念できるようにと、本年度から始められた事業である。

これは、公立学校共済組合東北中央病院の検診車を巡回させて、南会津、両沼教育事務所管内のへき地学校について実施したが、その結果は次のとおりであった。

会場	受診者数
只見小学校	20人
昭和中学校	23人
横田・川口小学校	41人
西山小学校	20人
尾岐中学校	4人
明和小学校	22人
伊南小学校	26人
田島小学校	14人
計	174人

(8) スキー講習会

共済組合が、教職員のスキー技術の向上と冬の健康増進、さらに組合員相互の親睦をはかるために行なっている。昨年度までは日帰りであったが、42年度は1泊2日とし、高湯、岳、猪苗代の3会場で1回ずつ実施した。実施結果は次のとおりで参加率は93%となり好成績を示した。

期 日	会 場	参 加 者	参 加 率
1月6日～7日	高 湯	49人	96%
1月13日～14日	岳	47	92
1月20日～21日	猪苗代	48	92
計		144	93

(9) 銀婚式祝賀

昭和42年度中に銀婚式(結婚25年)を迎えた組合員に対して、毎月該当月に支部長の祝辞を添えて記念品を贈呈した。42年度は特に福島地区の該当者、27組を県庁5階正庁に参集していただき記念品の贈呈式を挙行した。

本年度の該当者は、206人(男190人、女16人)であった。

(10) 母子家庭招待

未成年の子を有する女子組合員を、母子ともに1泊招待して慰労しようと、42年度に新たに始められた事業である。期間は2月1日から3月31日までのうち希望の日に飯坂保養所に1泊してもらい、その費用を助成するものである。実施結果は次のとおり。

招待者数 98組

(11) 保育補助事業

出産した女子組合員に対し、ホームヘルパーの費用の一部を助成しようと、昭和42年度から始められた事業である。1人あたり1,500円を助成したが実施結果は次のとおりであった。

実施人員 335人

(12) レクリエーション大会助成

共済組合員相互の親睦と健康増進をはかるため、県教育庁、各教育事務所、医大等で開催するレクリエーション大会に600,000円を交付した。各教育事務所別の助成額は次のとおりであった。

配分額は均等割額と組合比例額の合計額である。

助成金配分表(組合員数は42.4.30現在)

教 育 事務所別	組合員数	配分額	教 育 事務所別	組合員数	配分額
	人	円		人	円
信 夫	2,428	46,000	北 会 津	1,635	37,000
伊 達	967	30,000	耶 麻	1,063	31,000
安 達	1,178	33,000	両 沼	946	30,000
郡 山	2,236	44,000	い わ き	3,395	56,000
岩 瀬	936	30,000	双 葉	858	29,000
西 白 河	1,127	32,000	相 馬	1,470	36,000
東 白 川	731	28,000	医 大	816	29,000
石 川	636	27,000	教育庁各課	185	22,000
田 村	1,120	32,000			
南 会 津	701	28,000	合 計	22,428	600,000

(13) へき地医薬品の配布

へき地学校に勤務し医療施設に恵まれない教職員全員に対して、1セット2,000円の救急医薬品を毎年配布している。昭和42年度に配布を受けた組合員は、2,552人であり、その金額は5,104,000円となり、へき地勤務者に大いに喜ばれている。

(14) 冬期施設利用助成

公立学校共済組合飯坂保養所(吾妻荘)は冬期間の利用者が激減するので、昨年に引き続き12月1日から3月31日までの4カ月間に利用する組合員全員に利用券を発行し、利用料400円を助成し、組合員及びその家族のレクリエーション等に活用をはかった。

42年度の発行枚数は1,250枚であり利用枚数は875枚であった。

7 県事業による福祉事業

共済組合として実施する福祉事業の他に、県自体として次のような福祉事業が行なわれた。

(1) 教職員美術展覧会

県下教職員に対し、日頃の技能を披露する機会を与えるとともに美術をとおして相互の親睦をはかることを目的として毎年県下4方で実施しており、年を追うごとに多数の力作が出品され、好評をよこした。

(2) 教職員スポーツ大会

県下教職員の健康管理と友好親善をはかり、明るく朗らかな職場を建設しようとするため、毎年8月に6方に分散して実施しており、陸上競技など9種目に熱戦がくりひろげられた。

(3) へき地教職員懇談会

へき地教育の振興と、へき地校勤務職員の福祉向上のため、知事、教育長を囲んで懇談会を開催し、恵まれない勤務条件や教育環境等教育上の諸問題についての切実な声を聞き、今後の対策に資するとともに、日頃のご苦勞を慰めた。

本年は13人が参加して、始終なごやかなふん囲気のなかで懇談会が実施され、内容的にも大きな収穫があった。